

令和 8 年 5 月 2 6 日
環境部 環境政策課
0438-36-1442

「木更津市エコイベント開催指針」を策定 イベントの環境に配慮した取組を“見える化”

本市は、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しており、環境配慮型のイベント運営を推進するため「木更津市エコイベント開催指針」を策定しました。

本指針では、イベントにおける環境に配慮した取組に応じて「きさエコ認定」として認定レベルを付与することで、取組を市民に分かりやすく“見える化”します。

- 1 指針名称 木更津市エコイベント開催指針
- 2 策定日 令和8年4月1日
- 3 指針の概要 近年、イベント開催に伴う環境負荷の増加が課題となる中、本指針では、ごみの減量、資源循環、省エネルギー、環境配慮型の交通手段の利用、普及啓発などの観点から、イベント運営において実施可能な環境に配慮した取組内容をチェックリスト形式で整理し、企画段階から事後評価までの流れを示すとともに、計画段階での取組率に応じて「きさエコ認定」として評価することで、環境に配慮した取組を市民に分かりやすく“見える化”します。
イベントを通じて市民や事業者の環境配慮行動の促進につなげてまいります。
- 4 対象イベント 本市が主催・共催または実行委員会方式で実施するイベント
- 5 指針の特徴
 - ・主催者が取り組みやすいよう、環境配慮の取組をチェックリスト形式で整理
 - ・取組率に応じた「きさエコ認定（プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズ）」による評価
 - ・認定結果をイベント会場や広報物で活用し、市民に向けて取組を分かりやすく発信
 - ・イベント実施後の評価・改善につなげるPDCAサイクルを明確化

6 「きさエコ認定」認定レベル

<p>PLATINA プラチナ</p>		<p>カーボン・オフセット (CO₂排出量を、他の場所での削減量を購入することで埋め合わせる仕組み) を活用した場合</p>
<p>GOLD ゴールド</p>		<p>取組計画率 100%</p>
<p>SILVER シルバー</p>		<p>取組計画率 80%以上</p>
<p>BRONZE ブロンズ</p>		<p>取組計画率 60%以上</p>

エコイベントの取組内容

取組分野1.ごみの減量とリサイクル推進



【具体的な取組内容】

- ①参加者へごみの持ち帰りを呼びかける
→会場掲示やアナウンス、チラシ等により、
来場者へごみの持ち帰り協力を促します。
- ②会場に設置するごみ箱は、分別が分かりやすいよう工夫する
→表示の大きさ・色分け・例示(「紙」「プラ」「ペットボトル」等)を明確にし、
来場者が迷わず適切に分別できるよう配慮します。
- ③マイボトルの持参を推奨する
→広報物や会場アナウンス等で、持参の呼びかけを行い、
使い捨て容器の削減につなげます。
- ④チラシやポスターは必要枚数を精査し可能な限りデジタル媒体を活用する
→ウェブ掲載、SNS 発信、二次元コード活用など、
紙媒体を使わない案内方法を検討します。
- ⑤装飾品は繰り返し使用できるものを使用する
→イベントごとに廃棄物を増やさないよう、
再利用可能な資材やレンタル品の活用を推奨します。
- ⑥物品販売ではマイバッグ持参を呼びかけ、ポリ袋の使用を控える
→売り場での掲示や声かけを行い、使い捨て袋依存を減らします。



取組分野2.省エネルギー・省資源の推進



【具体的な取組内容】

- ① イベントで使用する電力や燃料を、
電気自動車などの再エネ供給源から確保する
→EV(電気自動車)を活用し、発電機の使用を抑えることで
CO₂排出を低減します。
※詳しくは「電気自動車マニュアル」をご覧ください

 - ② 会場の電力使用を抑えるため、自然光が入りやすい場所を選ぶ、
またはレイアウトを調整する
→照明の使用時間や必要量を減らし、省エネにつなげます。

 - ③ イベントで提供する飲食物は、可能な範囲で市内事業者から調達する
→輸送距離を短くすることで、物流に伴うCO₂排出の削減に寄与します。

 - ④ イベントに関係する車両には、
アイドリングストップやエコドライブの実施を依頼する
→搬入車両・スタッフ車両など、関係者への周知を事前に行います。

 - ⑤ 印刷物を使用する場合は、
環境配慮型の素材(再生紙・FSC 認証紙・植物油インキ等)を選択する
→紙やインク的环境負荷を減らします。
- ★カーボンオフセット(J-クレジット制度など)を活用し、
イベントによるCO₂排出の相殺を図る
→排出削減が困難な分については、オフセットにより環境負荷を軽減します。



取組分野3.交通手段における環境配慮への推進



【具体的な取組内容】

- ①環境負荷の少ない交通手段の利用を参加者へ推奨する
→広報物や事前案内で、公共交通機関、自転車、徒歩などの低炭素な移動手段の利用を呼びかけます。
- ②公共交通機関が利用しやすい会場の選定に努める
→駅・バス停からのアクセスや路線の本数を踏まえ、できる限り公共交通利用が可能な会場を検討します。
- ③公共交通の利用が難しい場合は、来場者へ乗り合わせの協力を事前に周知する
→駐車場案内や入場案内に合わせて、乗り合わせの呼びかけを行い、車両台数の削減につなげます。
- ④主催者や関係者が車両を使用する場合は、低公害車の利用やエコドライブの実施を依頼する
→搬入搬出車やスタッフ車両に対し、アイドリングストップ等の省エネ運転を周知します。
- ⑤徒歩・自転車などの低炭素な移動手段を活用したイベント企画に取り組み、その魅力を発信する
→サイクリングイベント、まち歩き企画など、地域とつながる低炭素な取り組みを積極的に取り入れ、来場者に紹介します。



取組分野4.自然環境及び周辺環境



【具体的な取組内容】

- ①イベントにより騒音・振動・悪臭が発生する可能性がある場合は、周辺環境への影響に十分配慮する
→スピーカーの向きや音量調整、作業時間帯の検討など、会場周辺の生活環境に配慮した運営を行います。
- ②イベント終了後は、会場や周辺道路にポイ捨てごみがないか確認し、必要に応じて回収する
→スタッフで見回りを行い、地域に迷惑が生じないように、清掃を徹底します。
- ③生態系や景観に配慮し、可能な限り自然環境に手を加えない会場運営を行う
→樹木・植物・水辺などへの影響を避け、設営位置や動線を調整するほか、自然環境を損なわない資材・レイアウトを心がけます。



取組分野5. 普及啓発



【具体的な取組内容】

- ①参加者や関係者に対して、イベントが環境に配慮して実施されていることを周知する
→事前案内、チラシ、ホームページ等で、本イベントがエコイベントである旨を分かりやすく伝えます。
- ②会場内では、掲示やリーフレット等により、実施している環境配慮の取組内容を来場者に提示する
→ごみ削減、再エネ活用、交通対策など、取り組み項目を見える化し、来場者が理解しやすいよう工夫します。
- ③イベント終了後に振り返りを行い、次回開催時の改善につなげる仕組みを整える
→スタッフミーティングや記録表を活用し、実績と課題を整理して、継続的な環境配慮の向上を図ります。
- ④参加者が環境配慮を学習・体験できる仕掛けを企画・運営に取り入れる
→体験コーナー、展示、ワークショップ等を設け、環境行動への理解促進や行動変容につなげます。

